

会場参加 27名・アンケート提出 20名：回収率 74%

質問1. 立場を教えてください。

当事者	家族	友人	支援者	その他
1名	5名	0名	11名	3名

- ・支援者内訳（認知症地域支援推進員1名、精神保健福祉士4名、ケアマネージャー1名、看護師2名、介護士2名、記載なし1名）
- ・その他記載なし3名（内訳記載なし2名、支援者の子ボランティア参加1名）

質問2. 登壇者お二人のお話を聞いて、ご自身の中で得られたことはありましたか？

- ・自分自身や自分の子供達もヤングケアラーだったなど気づいた（癌や認知症）。私も学校の先生の一声でもう先生に派内したくないと思った事を思い出した。考えさせられた。
- ・期待していた内容とは違いました。テーマにある「子どもが子どもらしく暮らす」を現実的な問題として具体的な事例を期待していたため残念でした。
- ・色んな支援があることを知ることが出来ました。
- ・ケアラーへの声かけの重要性 同じ目線に立って信頼構築の重要性や子供の意思決定の尊重など気づきを得られました。
- ・要支援者のケアをする人のケースワークが重要であり、ケアラーの支援まで意識する必要があること(学校の講義では要支援者のケースワークしかポイントとしていないため)
- ・とてもあった。勉強になった。
- ・寄り添うタイミングや周りの気づかい、社会資源を学び伝えていく必要性、サポートしすぎない関わり方(当事者の気持ち)
- ・認知症という病気を持つ人というより、その人自身にあった対応が寄り添う事なのかなあと思った。その人自身(生い立ちから現在)を知ることも大切ということ。ヤング、若年ということが制度を知らない事以外にも経験の少なさから選択肢が少ないということを知った。家族は家族らしく自分らしい生活が出来ているか。
- ・若年性認知症について、できる限り企業での就労が必要なこと
- ・色々な支援があり、サポートを受ける権利があることを知りました。
- ・ヤングケアラーなのか、見極めが難しいと感じた。サポートが必要と感じた時の最初のアプローチのやり方、声のかけ方は参考になった。
- ・娘が、今中学生でヤングケアラーになった事で大橋尚也さんの話がとても参考になりました。
- ・ヤングケアラーについて、しっかりと理解を深めることが出来ました。親として、どのように向き合ったら良いのか、自分の名前で方向性が見えた気がして心が軽く、前向きな気持ちになりました。とてもセンシティブな事だと再認識しました。周囲にもヤングケアラーがいた時は、慎重に声かけ支援出来ると思いなと思いました(頭ごなしは良くない。子ども世代が求める支援を、必要な分だけ)。
- ・“ヤングケアラー”ラベリングによるケアラーへの配慮不足について気づかされた。

- ・ありました
- ・ヤングケアラーという言葉だけが1人歩きしないように、何を求めているのかを考えることが大切だと感じました。
- ・介護は大変なことばかりだと思っていましたが、周りに声をかけてくれる存在に助けられて乗り越えられることもあるのだと少し不安がやわらぎました。
- ・記載なし5名

### 質問3. 若年性認知症相談窓口・若年性認知症支援コーディネーターの業務について

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった	記載なし
17名	3名	0名	0名

#### 4. 本日の講演会で参考になったことありますか？

- ・子どもの権利条約、支援の捉え方(すべてに支援が必要ではない)見守ること、支援のタイミングを逃さないよう、子どもが話せる環境を作る。
- ・時には声をあげる、人を頼る、難しい人との距離感を理解・考慮しながら支援していく…等々。
- ・「頑張っているね」の声かけが逆効果であること。当事者や最前線で支援している人からの発信はリアリティを感じた。
- ・制度は作っていくもの。声に出す。地域円卓会議があるということ。
- ・多職種連携の必要性。当事者に寄り添い、理解する大切さと難しさ
- ・今後、病院を受診される方の家族への声かけに役立てられそう。
- ・大橋さんの体験談。当事者が求めること、出来る事を探していく
- ・ヤングケアラー本人の話を直に聞いたことは良かったです。又、当事者の気持ちを色んな角度から聞くことができ自身で考えることができました。
- ・安次富さんの支援について、初めて聞く事ばかりだったのでとても良かった。
- ・いつもありがとうございます。家族支援についての事例から沖縄県の介護者は年齢層が若いと聞いたので、子ども～若い世代への支援の必要性を感じました。
- ・ないもの(制度)は声を出す
- ・制度に合わせるのではなく、本人の状態や希望に合わせる事が大切と感じました。
- ・縦や横につながりだけではなく、斜めにつながりも大事という言葉が印象に残りました。
- ・記載なし7名

#### 5. 今回の講演会の満足度

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった	記載なし
16名	3名	0名	1名

#### 6. 次回の講演会の要望について

- ・本人や家族、支援者が話すのも必要だと思う グループワーク(ケアマネや包括とのグループワーク)

- ・もっと社会問題として発信していけるようにするにはどうしたらいいか…認知度が低い
- ・県内での支援の制度についてもっと知りたい。支援の事例についてもっと知りたい。
- ・学校、教育現場の方にも聞いて欲しい内容でしたので次回は学校にもお知らせをしてほしいですね
- ・一人一人症状は違うとは思いますがやはりどんな症状があるのか、体験談等を聞きたいです。
- ・記載なし 15名

#### 7. 今後オンラインでの講演会開催について参加の有無について

参加したい	参加したくない
17名	0名
参加するなら	参加出来ない
職場（11名）個人（12名）重複回答含む 内訳記載なし 1名	2名（理由：ネット環境が整っていない1名、 理由記載なし1名）

- ・記載なし 1名

#### 8. コーディネーターに望むことや、欲しい情報など

- ・ききたいことは、いつでも電話します。
- ・当事者やその家族、関係機関に対して認知症の理解促進や偏見・差別をなくす取組について発信して欲しい
- ・沖縄で行っているNPO、NGOなど法人でやっている支援情報など…
- ・情報の集め方や支援する方のモチベーションの保ち方など
- ・教育関係者とのネットワークがあるのかを知りたい。県内ヤングケアラーの集うところはあるか？
- ・訪問診療などアウトリーチのサービスは必要と感じますでしょうか？
- ・記載なし 14名

#### 9. コーディネーターに相談したいことはあるか？

- ・する。
- ・記載なし 19名

#### 10. 感想

- ・大橋さんの貴重なお話を伺えて、本当に良かったです。ありがとうございました！！  
親として、子どもに対して申し訳ない気持ちがいつもあったが、大橋さんの気持ちを聞いて、病気でも親子のきずなは変わらない事を感じました。早く、家に帰って、子どもを抱きしめたい、と思いました。